

取り組み状況資料

条 項：第 7 条 市民の責務

市民は、まちづくりの主体であることを自覚し、互いの活動の自主性および自立性を尊重し、協力しながら市民自治によるまちづくりの推進に努めるものとする。

2 市民は、まちづくりに参加するに当たっては、自らの発言及び行動に責任を持つものとする。

3 市民は、市政に関する認識を深め、市と協働して地域社会の発展に寄与するよう努めるものとする。

取り組み：第1項

①防災訓練や避難所運営訓練等への参加

第2項

②まちづくりアンケート等各種調査への回答

③パブリックコメントへの意見提出

第3項

④出前講座の利用による情報取得

各種訓練を通じた防災対策

I 平成25年度に実施した主要訓練

No.	訓練名 参加人数	内 容	課題等
1	シェイクアウト訓練 (7月12日(金)) 市庁舎を含む10団体、 9,050名参加	・地震が発生したことを想像し、自分の身を守る簡単な動作を、参加者全員が同じ時間に一齐に行う自主参加型の訓練 ・登録メールにて1週間前・当日に案内	・市内小中学校23校が参加したが、今後も学校行事として取り組みやすい配慮(週末を避ける等)が必要。 ・庁内では放送が聞きとりづらく、隠れるスペースが無かったとの指摘も。避難訓練との連携が課題。
2	防災訓練 (9月1日(日)) 20団体、約500名参加	・豊幌地区の水害想定住民避難訓練を9:00から実施(豊幌地区100名参加)→豊幌地区センターに一時避難した後、バスで市民体育館へ避難 ・市民体育館・イオンタウン江別・若草公園では20団体が参加し防災啓発のブース展示	・幅広い団体の参加を得て実施したが、実働の避難訓練と一般市民向け啓発展示との切り分けが課題。 ・各種体験による防災意識啓発に役立ったという意見が大勢。(避難先把握・身の守り方・備蓄の重要性等)
3	避難所運営訓練 (10月5日(土)6(日)) 見晴台自治会を中心に約 100名参加	・対雁小学校体育館を使用し宿泊型の避難所運営訓練を実施 ・自衛隊、大学、協定締結企業等が支援	・夜の防寒対策や停電時の電源の確保、保温性のあるクッション材等の配慮が課題。 ・避難所運営を支援できる職員の育成と運営マニュアルの整備が必要。 ・避難所までの参集・避難行動訓練との組合せが今後の課題。
4	避難所運営訓練 (11月16日(土)) 大麻約50名・厚別約40 名参加	・森林公園町内会(厚別区市民)が大麻高校を經由し大麻西地区センターへ避難 ・大麻側は第一住区、第三住区、大麻ひかり町自治会が参加	・行政区域を超えた避難訓練として、厚別区在住市職員が避難誘導・避難所運営等を支援。この結果を通じ市職員の参集場所や効率的な配置の検討が課題。

		<ul style="list-style-type: none"> ・集合した後、両市職員による講話と両市市民のグループディスカッションを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・厚別区では避難所運営訓練は実施しておらず、江別市の訓練内容に興味関心が高く好評。
5	<p>災害情報伝達研修・訓練 (2月3日(月))</p> <p>自衛隊・警察・大学を含め約150名参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市災害対策本部における「本部情報連絡室」の機能検証 ・自衛隊の「情報伝達」研修を受け、訓練を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部情報連絡室に情報を集約する一方、対外的な情報伝達は総括部である事など、災害対策本部体制の全体的な見直しが必要。 ・情報の優先度やわかり易く伝える手法に課題。今後は職員の基礎的なスキル向上を目指した講習・研修の継続が必要。

各種訓練を通じた防災対策

Ⅰ 平成26年度に実施した主要訓練

No.	訓練名(参加人数等)	内 容	特徴・課題等
1	自主防災組織研修会 6月28日・79名	野幌鉄南地区西部・文京台・見晴台・大麻第一地区自主防災組織からの取組事例報告	新たに訓練を実施する地域が増えたが、訓練未実施地域の解消には至っていない。
2	総合防災訓練 8月10日・400名	北海道消防学校を会場に野幌北地区自主防災組織の避難行動・自衛隊等関係団体の連携訓練	トラック協会等、新規協定締結団体が参加したが、これら関係団体との平時からの連携強化が課題
3	シェイクアウト訓練 9月1日・11,542名	市内小中学校の他、10民間事業所が参加・その場で身を守る行動をとり防災意識を醸成	小中学校が参加できる平日に実施(今後も曜日に配慮し実施する予定)
4	大麻第二地区自主防災対策本部避難所運営訓練 10月4日・196名	大麻東小学校を会場に要支援者受入、炊き出し、緊急貯水槽の確認等を実施	大麻第二地区で初の大規模な訓練。自主防災最大の19自治会が参加
5	野幌鉄南地区西部・東部自主防災協議会避難所運営訓練 10月4日・143名	野幌鉄南地区センターを会場に夜間の訓練を実施・連絡網の確認と応急手当、無線を使用し市との連絡等を実施	課題となっていた「夜間」の避難行動を含め、訓練を実施
6	見晴台自治会自主防災組織避難所運営訓練 10月5日・180名	対雁小学校を会場に避難経路確認(一部通行止も想定)、要支援者救助等を実施	リヤカー等を活用し要支援者避難訓練を初めて実施
7	文京台自主防災協議会避難所運営訓練 10月18日・111名	文京台地区センターを会場に炊き出しやAED、消火器訓練等を実施	一時避難所～収容避難所までの地区毎の集団避難を初めて実施
8	職員防災研修 2月6日・27名	5・10年目職員を対象に消防庁災害伝承10年プロジェクトによる東日本大震災の体験談を講話	災害対応経験者(昭和56水害)が減少して行く中、中堅職員への防災意識の醸成が課題
9	自主防災組織研修会 2月7日・110名	自主防災組織を対象に消防庁災害伝承10年プロジェクトによる東日本大震災の体験談を講話	避難所での地域住民の繋がりの重要性を実体験を基に講話
10	職員災害時情報伝達訓練 2月12日・68名	酪農学園大学・北九州市立大学・消防庁消防研究センターの協力を得て、庁内各部署の情報伝達を訓練	事前に災害想定を示し、予習対応。分散した庁内各部署での情報伝達にタブレット端末を活用し検証

各種訓練の実施状況等
平成27年度に実施した主な訓練

No.	訓練名 (参加人数)	実施日 (場所)	内 容
1	自主防災組織研修会 (83名)	6月27日 (コミュニティセンター)	防災士による「災害と気象の関係」講演 避難所生活におけるプライベート区 間確保の体験
2	シェイクアウト訓練 (約11,500名)	10月1日 (市内各所)	市内小中学校のほか市関係施設等で 実施 その場で身を守る行動をとり防災意 識の醸成を図る
3	上江別自治連合会自主 防災組織避難所運営訓 練 (140名)	10月4日 (上江別自治会館)	避難者受付、炊き出し、消火、応急手 当等の実技訓練を実施
4	総合防災訓練	10月10日 ※荒天のため中止	江陽中学校を会場に地域自治会と学 校関係者や自衛隊等関係団体との連 携訓練
5	野幌鉄南西部地区自主 防災協議会避難所運営 訓練 (123名)	10月24日 (野幌鉄南地区セ ンター)	避難行動訓練、応急手当、段ボール間 仕切りの作成訓練等を実施
6	文京台自主防災協議会 避難所運営訓練 (83名)	10月31日 (文京台地区セン ター)	避難行動、炊き出し、AED、消火器訓 練等を実施
7	大麻元町地区自主防災 組織防災訓練 (100名)	10月31日 (大麻西地区セン ター)	応急手当、消火器取扱い、段ボール間 仕切り作成、炊き出し訓練を実施
8	職員及び自主防災組織 合同研修会 (84名)	11月17日 (市民会館)	5・10年目職員及び自主防災組織を対 象に一般社団法人減災・復興支援機構 により避難所運営セミナーを開催
9	職員災害図上訓練 (70名)	1月19日 (市民会館)	一般財団法人消防科学総合センター の協力を得て、災害対策本部の設置・ 運営の図上シミュレーション訓練を 実施

平成28年度に実施（予定）の主な訓練

No.	訓練名	予定日（場所）	内容等
1	自主防災組織研修会	6月4日（土） （市民会館）	自主防災組織の活動発表及び参加者によるグループワークを実施
2	避難所運営訓練	7月23日（土） （第二小学校）	野幌中央連自主防災協議会
3	避難所運営訓練	8月28日（日） （大麻泉小学校）	東大麻自治連合会自主防災本部
4	避難所運営訓練	9月24日（土） （野幌若葉小学校）	野幌若葉自治会
5	シェイクアウト訓練	10月3日（月） （市内各所）	防災情報提供サービス登録者及び市内小中学校、市関係施設等を対象に実施
6	総合防災訓練	10月8日（土） （江陽中学校）	地域自治会と学校関係者や自衛隊等関係団体との連携訓練
7	避難所運営訓練	10月10日（月） （北翔大学）	文京台自治連合会・北翔大学
8	避難所運営訓練	10月23日（日） （第一中学校）	上江別自治連合会
9	職員防災研修 （5.10年職員対象）	11月9日（水）	減災・復興支援機構の指導により研修を実施
10	自主防災組織研修会	11月12日（土） （市民会館）	東日本大震災の語りべを招き、講演会を実施
11	職員災害図上訓練	1月12日（木） （市民会館）	消防科学総合センターの協力により実施